

十和田市立 新渡戸記念館だより

新渡戸記念館 新館構想発表!!



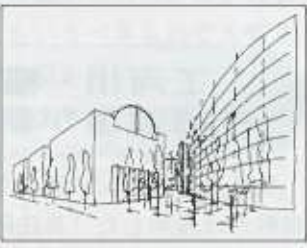
太素塚整備構想全体図

当館の運営母体・太素顕彰会平成8年度第二回評議員会(今年3月開催)で新渡戸記念館新館構想が発表されました。

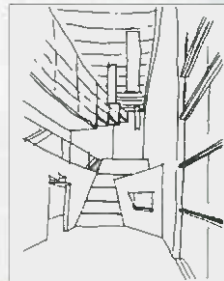
～こんな記念館はいかがですか～

夢ある体験学習の場

大通りに面した新館は街を歩いていてなにげなく入ってしまうようなガラス張りの入り口になっています。入ってすぐの「プロムナードギャラリー」は自由に散策しながら催し情報などがわかる空間です。1階には三本木原開拓についての広々とした常設展示室と企画展示室、2階に新渡戸稲造博士に関する常設展示室とマルチメディアを使った「サイバーライブラリー」も設置される予定です。



▲記念館新館正面 (イメージ図)



楽しいゲームを通して開拓の歴史や稲造博士について学ぶというのはいかがでしょうか。大人から子どもまで楽しめる記念館、教育、文化、観光と多方面に大きく貢献できる記念館に生まれ変わります。(2面につづく)
◀プロムナードギャラリー(イメージ図)

新渡戸記念館新館コンセプト — ユニークで夢のある場に —



(有)建築メディア研究所
代表取締役 後藤 英邦

新しい記念館の構想を考えるにあたっては、新渡戸一族の優れて先見性のある功績から、ユニークなキャラクター付けを心がけました。また、新しい記念館をいかに街並みになじませるかも重要なテーマでした。墓所があり木々の生い茂る「太素の杜」の静寂さには十分配慮したうえで、新館が町並みの中に顔を出し、開放的で親近感が持てるように、そして記念館とアトリウム(中庭広場)の二つの性格をリンクさせる事で、夢のある場となるようにと考えました。新しい記念館と太素塚が十和田市活性化のエネルギーになればと思います。



太素顕彰会評議員

相坂平土地改良区理事長 **馬場 栄太**

土地改良事業に関係して三十数年、当初相坂平土地改良区内は土水路で漏水がはげしく末端まで水が届くのに数日かかりました。国や県にお願いしコンクリートの幹線用水路となって450ha余の水田となり、水は管理する人によりその力が增大すると感じました。戦後稲生川流域の開田は2000ha余りに増え、十和田市は「みどり太陽のまち」となりましたが、これはひとえに新渡戸三代の偉業によります。だれが法量より太平洋まで人工河川が続くと思ったでしょう。先人に一步でも近づくよう現代農業の基となる土地改良事業を今後も進めていきたいと思ひます。



太素顕彰会評議員

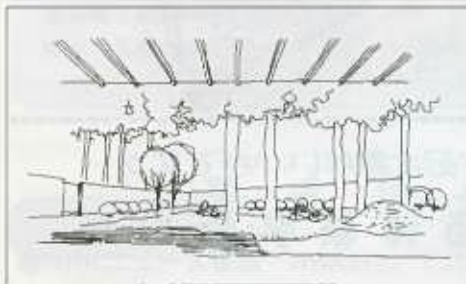
十和田市農業委員会会長 **山崎 誠一**

整然と区画された街「十和田市」。稲生川がもたらした緑豊かな台地と黄金の田園風景がどこまでも続くこの街の誕生は、新渡戸親子三代の労苦の成果にほかなりません。よく街づくりは人づくりと言われます。道路はその街の顔です。真っすぐな道は市民性を表しています。その代表格が「官庁街通り」です。水田の持つ機能、それは食料生産のみならず、国民の文化や生活に多くの関わりを持ちます。不毛の台地が「水」によって生まれ変わった先人の偉業を、膨大な記念館の資料と共に、次世代へ確かに伝えていかねばと考えています。

～こんな記念館はいかがですか～

市民の憩の場・市のゲストハウスとして

新館隣りには本格的な日本庭園と茶室のある休憩施設の建設が計画されています。太素塚の静かな木々の中、日本庭園を眺めながら、ゆったりとくつろいだひとときがすごせます。さらに太素塚境内にはあじさいの咲き乱れる遊歩道「あじさいロード」が作られ、市民の憩いの



◀ 休憩場の日本庭園 (イメージ図)

人工河川・稲生川トンネルの再現通路が新・旧館をむすぶ

現在の新渡戸記念館は改修され、当館所蔵の兵法関係資料だけ展示した「兵法研究資料館」に変わります。体験学習中心の新館にたいして、旧館は研究者のニーズにも答えられる施設として考えています。新館と旧館をつなぐのは人工河川・稲生川の穴堰（トンネル）を再現した連絡通路、通路を通りながら140年前の工事の様子を見る事ができる計画です。



◀ 現在の記念館は改修後兵法研究資料館となる予定です。

全日空シンポジウム **レポート**

国際人 新渡戸稲造を語る



新渡戸稲造

平成 9 年 5 月 31 日
北海道千歳全日空ホテルにてオープン記念シンポジウム「国際人新渡戸稲造を語る」が開催され、約1500人が参加しました。

スペシャルゲストによる基調講演

「国際社会に果たした稲造の精神・業績」



(元国連大使) 勲フォーリン・プレスセンター
理事長 **波多野 敬雄氏**

波多野氏は真の国際人の基本的な条件として「世界に関心もつ」「主張を明確に表明する」「人道問題に敏感である」「平和について正しい認識をもつ」の四点をあげ、長年国際問題にたずさわる中、国際社会での日本政府の対応にはどの点も欠けると強く感じており、今こそ国際連盟事務次長として活躍した稲造博士の精神と業績に学ぶべきではないかと語りました。

シンポジウムの様子▶



4人のパネリストによるパネルディスカッション
「国際人・新渡戸稲造を語る」

パネリスト各氏のテーマ講演



(財)新渡戸基金事務局長 内川永一朗氏

「祖父、父母そして稲造
——受け継がれる新渡戸家の精神」

内川氏は、国際人・稲造の原点を祖父・傳、父・十次郎の開拓精神にもとめ「稲造は祖父、父のフロンティア・スピリットを受けつぎ、明治維新後の日本の行く末を開拓しようとした」と語りました。また内川氏が長年研究テーマとしている産業組合中央会岩手支会会長としての稲造のありかたにふれ、「地域社会においても力をつくすのが真の国際人ではないか」と指摘されました。



北海道大学教授 三島徳三氏

「札幌農学校時代の稲造
——クラークの精神と遠友夜学校」

「稲造は札幌農学校二期生としてクラーク教授の教育モットー“be gentleman”(紳士たれ)を受けつぎ、札幌農学校教授時代には実践的な授業形式への改革(「講義」だけの授業形式から「演習・実験」を個別に行うゼミナール形式へ)を行った。また稲造が勤労青少年のために創設した遠友夜学校では知識より見識を重んじ“人格育成”を重視した」など教育者・稲造についてエピソードをまじえ語りました。



東京女子大学名誉教授 丸山キヨ子氏

「教育者・稲造の素顔
——稲造の教育理念と
開かれる女子教育」

丸山教授は東京女子大初代学長として稲造がいかに重要な精神的いしづえとなったか語りました。稲造が「教育とは祈りをもってなされるべき神聖なもの」との信念で授業開始前には必ず黙祷をしていた事や、博士の言葉「犠牲、奉仕の精神あってこそ二足の動物が人間たりえる」を引き奉仕(Service)と犠牲(Sacrifice)の頭文字からなる東京女子大校章は稲造精神を象徴している事など様々なエピソードを語りました。



関西外国語大学教授 佐藤全弘氏

「日本人そして国際人・新渡戸稲造
——武士道と国際連盟事務次長」

佐藤教授は稲造博士が著書「武士道」を通し、また国際連盟事務次長の仕事や交遊を通し、いかに他国との文化のかけ橋となったか語りました。佐藤氏は「稲造は真の国際人というだけでなく自国の文化を大切にするよき日本人であったからこそ文化のかけ橋になることができ、世界の人々の問題に親身に当たることもできた」と功績を評しました。

パネリストが一堂に会した
パネルディスカッション

★稲造に見る地球規模の視野と行動

このテーマについて三島氏は、稲造の著書「東西相触れて」を挙げその地球規模の視野と行動の原点は「共存共栄」思想にあると指摘、それを受け内川氏は稲造が国際社会だけでなく地域社会においても「共存共栄」を根本原理とし、産業組合中央会岩手支会の指導方針に“協力・親切・正直”をかけた事を語りました。

★人間・新渡戸稲造が私たちに託す
国際社会の理想

このテーマについて佐藤教授は「稲造は戦後、植民政策者の批判を受けたが博士の植民政策は地域民の利益優先で欧米の植民政策とは基本的に違う。“土地の不平等を放置して平和といえない”の言葉からも分かるがむしろ“世界土地共有社会主義”ともいべきもので人類全体の幸福という国際社会の理想実現を夢見たのでは」と指摘、「稲造がカナダ太平洋会議で述べた“世界平和の見果てぬ夢—激情ではなく理性が、自己の利益ではなく正義が全世界の民族と国家の仲人となる日”を夢見ようではありませんか」と呼びかけました。

★若き次世代の稲造へ託すもの

このテーマについて、三島教授は「近年教育の荒廃が問題にされているが教育者としての稲造のありかたから人々が学ぶことは多いのでは」と指摘し、丸山教授からも「稲造博士の奉仕と犠牲の精神に若い人々は学んでほしい」とのお話がありました。

シンポジウムで放映されたビデオ「世界平和につくした国際人・新渡戸稲造」は当館で見ることができます。

発見!!

知られざる稲造博士の業績

オランダ諸島自治の恩人として

シンポジウムの中で佐藤教授より「第一次大戦後に北歐オランダ諸島が自治権を獲得するにあたって、設立後まもない国際連盟が仲介、稲造は当時事務次長として尽力した。その事をオランダの人々は感謝し、議事堂の壁面に博士がオランダの自治をまさに提言している瞬間がレリーフとなり飾られている」という事実を明かしました。佐藤教授は「生前博士は“自分の死後20年経って、ただ一人の人に愛と感謝をもって思い起こされたい”と語られたが、遠く離れた北歐でたくさんの人々が博士のことを愛と感謝の気持ちを持って思い起こしている事実を知り、感動を覚えました」と結ばれました。

オランダ諸島は観光と海運を主要産業とする美しく豊かな地区。フィンランド領ですが住民の95%がスウェーデン語系。国連の仲介で1921年自治権を獲得、今も独立した政治的主権を持っています。



関連情報

●NHKニュース番組「NHK610」で三本木原開拓紹介

9月9日NHK青森放送局の夕方のニュース番組で三本木原開拓が紹介されました。担当金子アナウンサーの取材に当館も協力、番組には館長が出演し「幻の穴堰」内で130年前の穴堰工事の技術を解説しました。

●6月1日から9月31日までの来館小学校

〈十和田市〉東小学校 〈八戸市〉多賀台小学校・根城小学校・豊崎小学校・江南小学校・根岸小学校・吹上小学校・森木小学校・太久喜小学校・城下小学校・新井田小学校・白鷗小学校・旭ヶ丘小学校・城北小学校・長者小学校・白銀小学校・江陽小学校・湊小学校・是川小学校 〈五戸町〉蛭川小学校・五戸小学校 〈横浜町〉南部小学

— 編集後記 —

太素塚・新渡戸記念館環境整備構想を発表しましたが、市民の皆様の考えが反映されると思います。どうぞご感想をお寄せください。稲造シンポジウムでは「今に生きる思想」の感を強くしました。

校 〈百石町〉甲洋小学校 〈東北町〉蛭沢小学校 〈野辺地町〉若葉小学校 〈六ヶ所村〉泊小学校

記念館資料の提供

●花巻新渡戸記念館「新渡戸^{こねなみ}維民・傳・十次郎」展

花巻新渡戸記念館で開催の第16回企画展「新渡戸維民・傳・十次郎」展に全面的に協力、維民の兵法書や傳の煙草盆や箸箱、十次郎着用の甲冑など31点を貸し出しました。会期は9月5日から10月19日までです。



●栃木県立博物館企画展「明治天皇と御巡幸」

栃木県立博物館で7月20日から8月24日まで開催された第60回企画展「明治天皇と御巡幸」に当館所蔵の「行在所建札」「岩倉具視書簡」「慶応元年検地絵図」の3点を貸し出しました。企画展図録には「行在所——地方名望家の榮譽」として詳細に紹介されました。

活動報告

●館長各所で講演会

三本木原開拓の思想や稲造博士の著書「武士道」に掲載された古歌、俚諺（りげん・俗間のことわざ）を中心テーマとした講演を7月3日に十和田木鶏クラブ、9月6日三沢市公会堂の市民大学一般教養講座、9月25日花巻市生涯学園都市会館の「まなび学園」等で行いました。

●新渡戸氏ゆかりの地岩手県調査

7月31日・8月1日と岩手県東磐井郡大東町の安昌寺同じく龍泉寺、北上市二子の永明寺（ようめいじ）を調査しました。詳しい調査レポートは次号で報告します。

●青森県博物館等協議会平成9年度研究会にて事例発表

9月9日平賀町文化センターにて開催の青森県博物館等協議会平成9年度講演会・研究会で、当館佐々木学芸員が「新しい広報のありかた」として記念館だより市民全戸配布について発表し、全戸配布となった事が参加者から高く評価されました。

発行 太素顕彰会
 十和田市立新渡戸記念館
 〒034 青森県十和田市東三番町24-1
 TEL (FAX) 0176-23-4430
 印刷 有限会社 岩間印刷所